

松山遺跡第6次調査関係者説明会資料

2010年8月31日 京丹後市教育委員会文化財保護課

遺跡の名前	松山遺跡（まつやまいせき）
遺跡の所在地	京丹後市大宮町森本松山・織戸・宮の奥
調査を行った機関	京丹後市教育委員会
現地調査の期間	平成22年7月20日～9月2日（予定）
発掘調査を行った面積	約120㎡（長辺40.5m×短辺3mの調査トレンチ）

1. 松山遺跡の概要

松山遺跡は、大宮第三小学校の南側、竹野川左岸段丘上および竹野川氾濫原に立地しています。発掘調査は行われていない遺跡でしたが、縄文時代後期の注口土器や弥生土器が表面採集されており、内容は不明ながら内陸部に位置する縄文～弥生時代の遺跡として周知されていました。

周辺には、弥生時代中期の流路跡が見つかった稲荷岡遺跡や、縄文～中世の集落遺跡である沖田遺跡、古墳時代の祭祀遺跡と考えられるマンジョウジ遺跡などがあります。

2. 調査の目的

松山遺跡は、府営農業生産法人等育成緊急整備事業の対象となったため、平成21年度に京都府教育委員会および京丹後市教育委員会が遺跡の範囲や内容を確認するための試掘調査（第1～3次調査）を行いました。

その結果を受け、工事によって削られる場所について、記録保存のための発掘調査を行うこととなりました。調査は、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター（第4次）、京都府教育委員会（第5次）、京丹後市教育委員会（第6次）がそれぞれ分担して行いました。

なお、京都府教育委員会（第5次）の調査成果としては、弥生時代～古墳時代を中心とした遺物を大量に含む包含層、性格不明の大型土坑を検出しています。

3. 調査の概要

① 調査トレンチ内の基本層序（堆積した土の種類）

第1層 現耕作土、第2層 旧耕作土・床土、
第3層 中世後期を下限とする包含層、
第4層 弥生～奈良時代の遺物包含層、上層遺構面、
第5層 黒ボク層（無遺物）、下層遺構面、
第6層 扇状地性の砂礫層（無遺物）
に分かれています。調査は、第1層（現耕作土）と第2層を重機により掘削し、その後、人力により掘削・精査を行

いました。その結果、第4層の上面に鎌倉時代前期を中心とする生活面（上層遺構）と、第5層上面に弥生～奈良時代の生活面（下層遺構）があることがわかりました。

② 上層遺構

鎌倉時代～室町時代の土器を含む第3層を取り除いた後に、第4層上面を生活面とする上層遺構がありました。

上層遺構には、

- A 砂層を埋土とする流路跡 SD101・110（B～D地区）、
- B 不明落ち込み遺構 SX111・127・134・141・162（C～E地区）
- C 土壇墓と思われる土壇 SX112（D地区）
- D 柱穴約100基。建物跡・柵列などの復元はできない。
- E 耕作溝と思われる素掘り溝（F地区）
- F 平安時代の土坑（H地区）

が見つかりました。平安時代中期のFを除き、おおむね鎌倉時代のものと推定しています。

③ 下層遺構

上層遺構の生活面から下層遺構の生活面までには、20～30cmの厚さで、弥生～奈良時代の土器を大量に含む第4層が堆積していました。出土遺物には、須恵器円面硯1点が含まれていました。

この土を取り除いた後に、第5層上面を生活面とする下層遺構がありました。下層遺構には、

- A 竪穴住居貼り床と思われる粘土層が見つかった SH301（B地区）
 - B 竪穴住居3基と思われる遺構（E・F地区）
 - C 柱穴・土坑（G・H地区）
- などの遺構が見つかりました。

竪穴住居 SH301 は、幅約5mを測る方形のものと推定されます。床面上の4ヶ所には、粘土が赤くなった丸いところがあり、炉跡と思われます。

ほかには、古墳時代前期後半～中期前半の竪穴住居と、奈良時代前後の柱穴・土壇と思われます。

4. 調査の成果

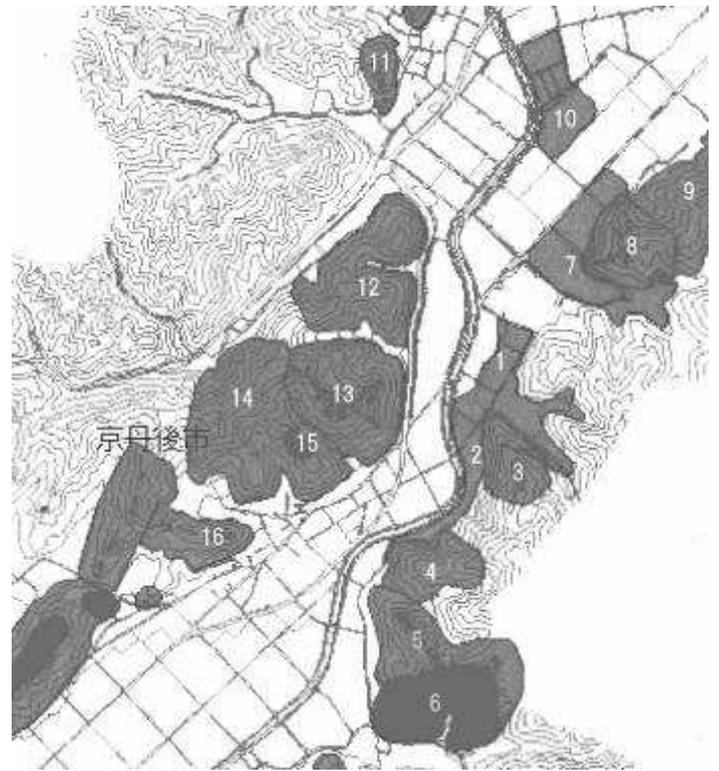
今回の調査では、上層遺構として平安時代中期の土坑、鎌倉時代の柱穴・不明落込遺構・墓と思われる土壇などが見つかったほか、下層遺構として古墳時代前期後半～中期前半と推定される竪穴住居跡や奈良時代と思われる柱穴が見つかりました。

また第4層からの出土土器には、弥生時代後期から奈良時代にかけての土器が大量に含まれており、その中には奈良時代のもので推定される須恵器円面硯が含まれていました。

市域出土の円面硯は、熊野郡のこくばら野遺跡（久美浜町甲山）・湯舟坂遺跡（久美浜町須田）、竹野郡の横枕遺跡（網野町島津）・浅後谷南遺跡（網野町公庄）・遠處遺跡（弥栄町木橋・鳥取）・竹野遺跡（丹後町竹野）・岩木遺跡（丹後町岩木）の7遺跡より10点の出土が知られており、おおむね奈良時代～平安時代前期のものであります。

松山遺跡の所在する丹波郡内では、須恵器杯や杯蓋を硯に転用した転用硯が正垣遺跡・枯木谷遺跡（大宮町奥大野）より出土していましたが、円面硯は初めての出土事例となります。円面硯の出土は、奈良時代に、識字層が松山遺跡に住んでいたことを示しています。

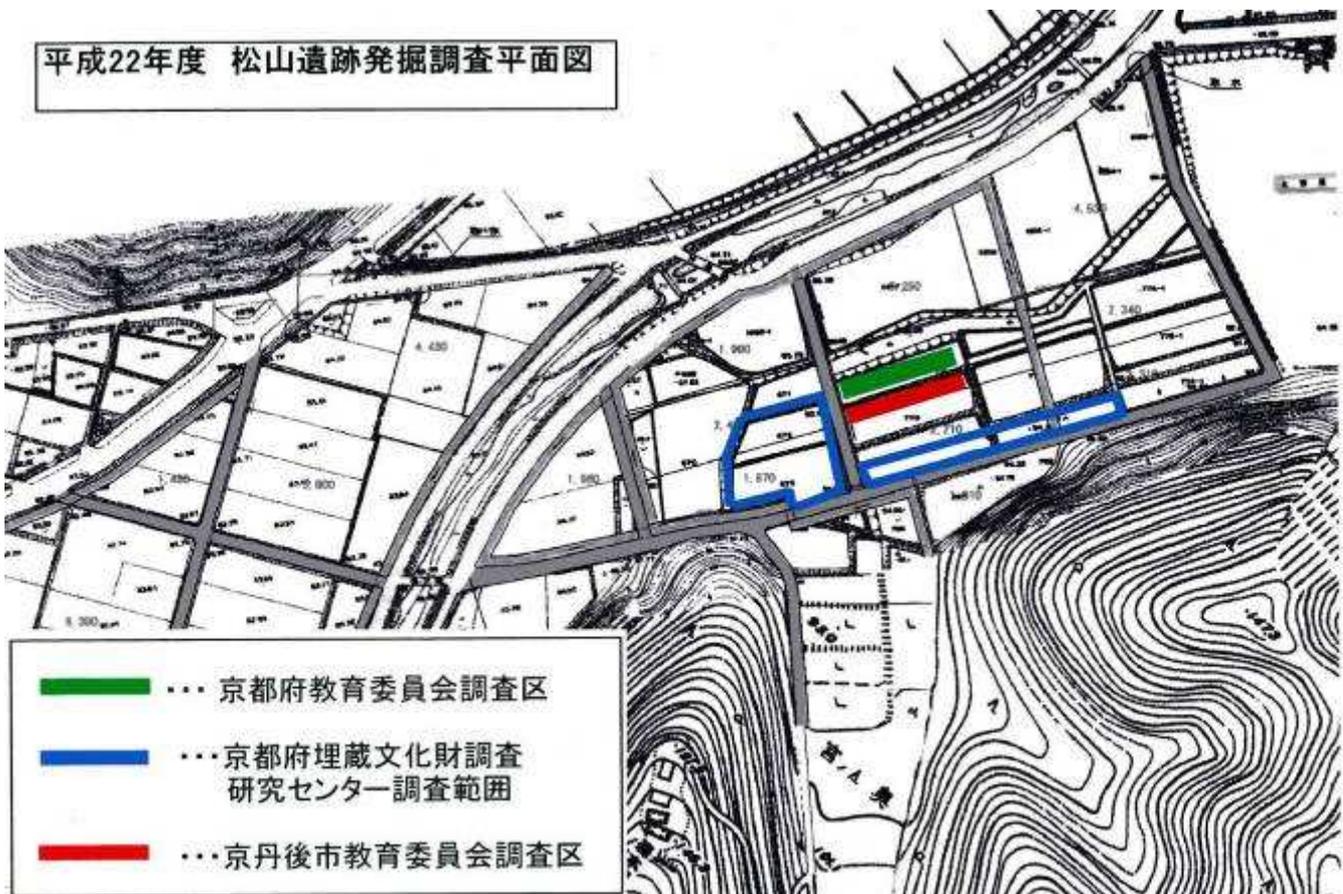
今回の調査地点では、弥生時代後期から鎌倉時代にかけて、断続的に人々の生活が営まれていたことがわかりました。今後、整理作業を進めていく中で、さらに細かい検討を加えていきたいと思っております。



周辺遺跡分布図 (S=1/20,000)

- 1 松山遺跡 (調査地) 2 マンジョウジ遺跡 3 宮ノ奥南古墳群
- 4 星ノ内C城跡 5 星ノ内古墳群 6 星ノ内B城跡
- 7 沖田遺跡 8 宮ノ奥古墳群 9 緑多山城跡 10 稻荷岡遺跡
- 11 丸山古墳群 12 入谷城跡 13 丸谷古墳群 14 森本城跡
- 15 當城古墳群 16 愛宕神社古墳群

平成22年度 松山遺跡発掘調査平面図

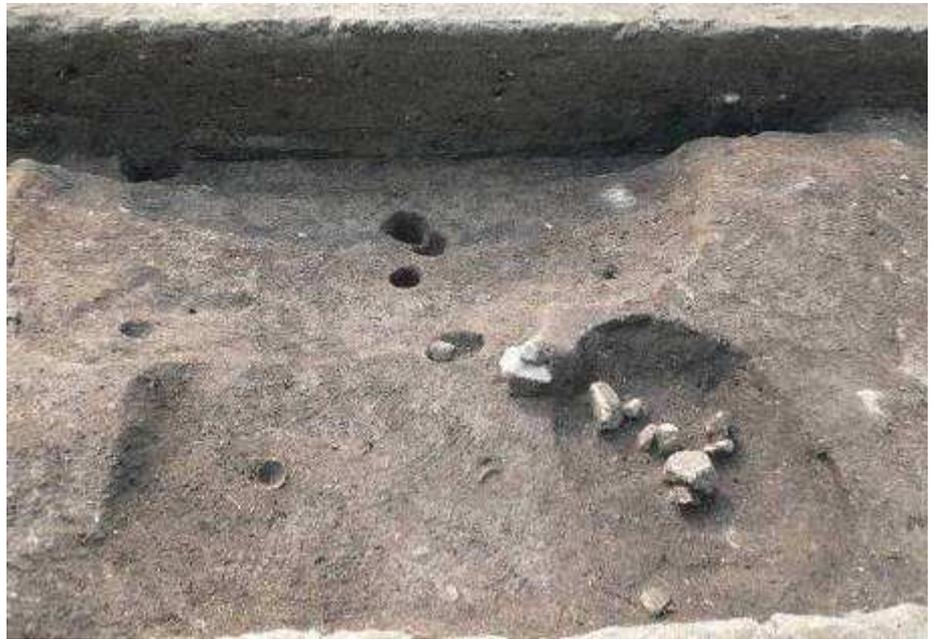




上層遺構全景（南西側より）



C・D地区上層遺構全景（南西側より）



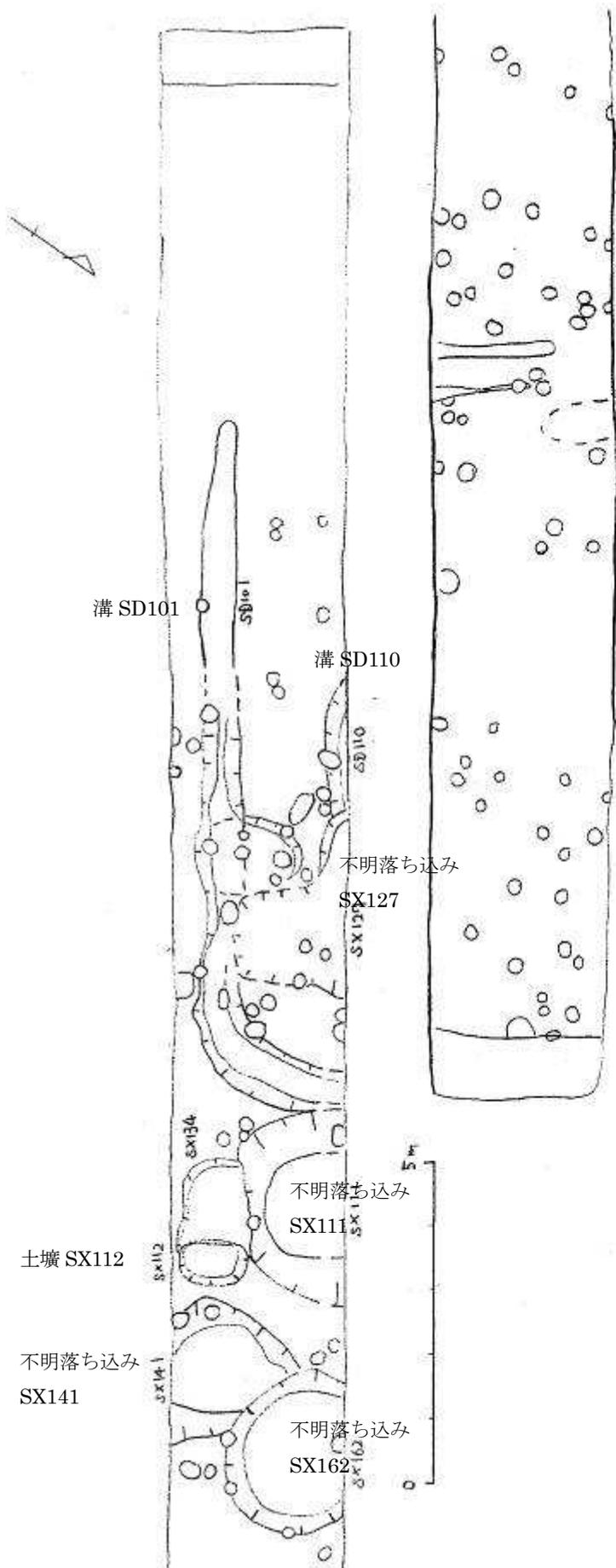
上層遺構 不明落ち込み遺構 SX111・134（D地区）



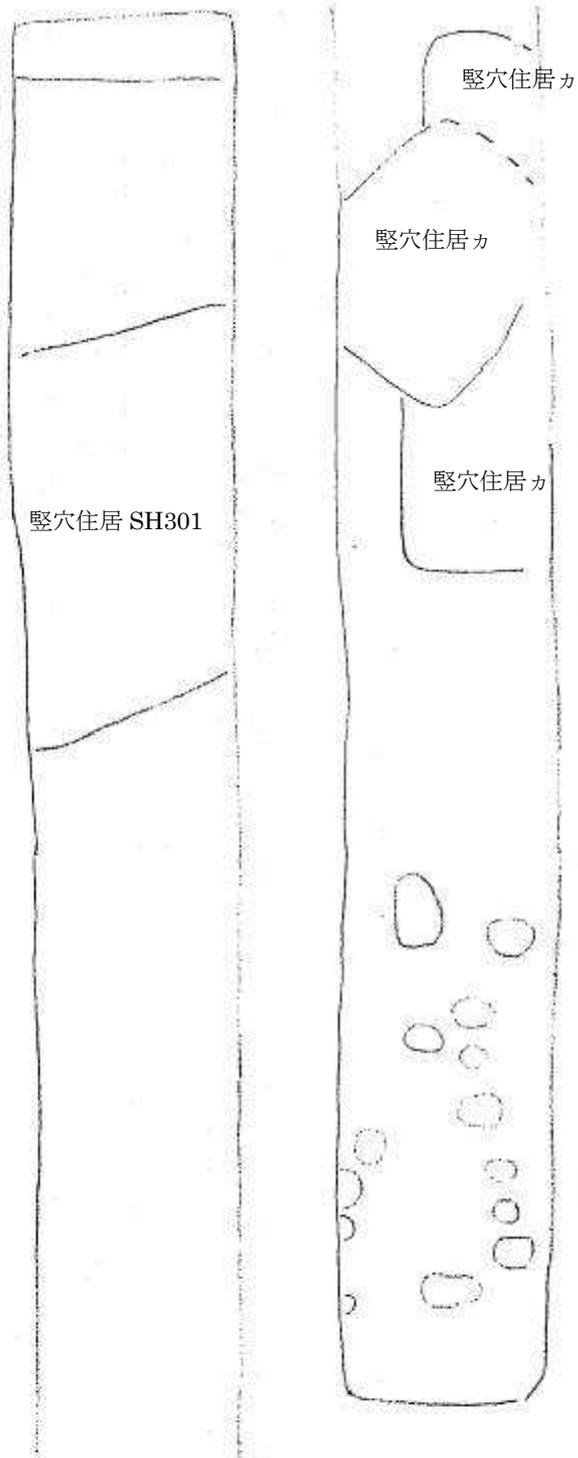
上層遺構全景（北東側より）



上層遺構 不明落ち込み遺構 SX141・162（D・E地区）



上層遺構平面図 (S=1/100)



下層遺構平面図 (S=1/100) と円面硯